

平成28年度新居浜市立図書館協議会 記録

- 1 日時：平成29年2月24日（金）15時30分から16時30分
- 2 時間：新居浜市立別子銅山記念図書館 多目的ホール
- 3 出席委員：小笠原委員、羽倉委員、星川委員、古川委員、土岐委員、玉井委員、内田委員、山内委員、濱田委員、加藤委員
- 4 欠席委員：寺西委員、真鍋委員
- 5 事務局：横井館長、和田副館長、久葉係長、杉田係長
- 6 傍聴者：0名
- 7 会議概要

(1) 会長・副会長の選出

会長に星川委員、副会長に内田委員を選出

(2) 平成28年度事業報告について

(杉田係長) 平成28年度事業報告説明

別紙資料により説明

(3)・図書館の運営について

(久葉係長) 平成29年度事業実施説明

別紙資料により説明

(副館長) 図書館整備事業について

別紙資料により説明

(館長) 組みひも講座を昨年度、図書館まつりで実施しましたが、今年のヒット映画の影響で組みひもがブームになっているそうです。再度実施したらどうでしょうか。

(内田副会長) 昨年、読書のワークショップに参加しましたが、とてもよかったです。

(久葉係長) ワークショップは、県立図書館の企画で行ったものです。また機会があれば実施の方向で考えてみたいと思います。

(館長) 井川香四郎さんの講演会というのは、新居浜市長が、別子銅山関係の内容の執筆を依頼しているそうです。それに関する講演会をしていただきたいと考えています。

・図書館の指定管理についての意見交換

(星川会長) 図書館の指定管理制度についての図書館からの説明をお願いします。

(館長) 新居浜市の全施設についてどうあるべきかということについて見直しをすすめている流れで図書館もその施設に入ります。前教育長から民間のノウハウを取り入れてはという意見もあり現教育長からは図書館を将来的には、市民が運営する形にはできないかという考えがあります。

昨年、武雄図書館では、ツタヤ運営でネットをにぎわせていました。反響が大きかったのですが、郷土に関する資料が廃棄されていたという事実があったそうで、問題だと

考えています。また独自の図書分類が採用されているということではありますが、指定管理業者が変った時点で維持できるのかという疑問があります。

新居浜市は直営ですが7名の正規職員と臨時非常勤職員で運営しております。指定管理のメリットといえば、経費削減にあるのですが、その点でいえば、臨時非常勤職員の割合が大きい現在の状態では削減メリットは見込めないと考えています。

民間ノウハウによる集客メリットのみといえます。

新居浜の図書館は、別子銅山記念図書館は、住友グループからいただいたものです。現在は建物だけでなく、いわゆる郷土資料、住友家の16代当主所蔵の泉幸吉文庫、住友の幹部で構成されていた老壮会の所蔵の図書をいただきました。どちらも貴重な資料であります。新居浜の財産であり、その管理を新居浜市が責任を持ってしなければならないのに、丸投げのような形で指定管理にするのは、寄贈の経緯などを踏まえたら、趣旨に反すると考えます。このような現状から、新居浜の図書館を指定管理にするのには、メリットよりもデメリットの方が多いと考えます。私の考えではありますが、みなさんのご意見を賜りたいと思います。

(星川会長) 指定管理についても全国でも賛否両論だと思います。みなさんのご意見お願いします。

(加藤委員) 行政の仕事は、市民生活の向上という目的があり、費用対効果だけでは語れないと思います。公教育は目先の費用対効果ではなく長い視点で見なければいけないものです。公教育の支えは図書館であるという考えから指定管理はなじまないと考えます。

(小笠原委員) 指定管理の新居浜の現状はどうでしょうか。

(館長) 例えば文化センターは文化体育振興事業団という団体が管理しています。

(副館長) 図書館は県下では、今治市、四国中央市が指定管理になっています。他は直営です。指定管理の割合は11%程度です。毎年指定管理の調査があり、館長も申しましたように、新居浜はさきほどのような理由で直営という回答をしています。このような経緯もありこの協議会で委員さんの意見をいただいている次第です。

(小笠原委員) 蔵書や選書が大切というのも学校図書館の運営でもわかります。また経費削減という点で折り合いもつけなければいけないというのもわかります。今治さんがどんな変化をしたのかわからないですが、変革のためには慎重にしないといけないと思いました。

(星川会長) 全国的に見れば、指定管理から直営に戻したという事例もあるようです。

(古川委員) 学校との連携の点でも行政が担うのがいいのではと自分自身考えます。付加価値を付けるという点では、運営する上で外部の方にコンサル的に入っていただいたりするのはどうかと思います。費用対効果がそぐわない施設なので、それよりも質の向上を目指してもらいたいと考えます。

(土岐委員) 指定管理は、長期的な視点での運営には向かないと思います。またメリットデメリットの事例を整理したらわかりやすいと思います。実際に指定管理を運営されているところはメリットもデメリットもあるわけですから。

(星川会長) 指定管理を任された業者は行政に対する改善の発言権はないということです。そういう課題もあるそうです。

(内田副会長) 司書が5名ということですが、臨時非常勤職員の方は司書資格をお持ちですか。

(館長) 非常に短い雇用期間という条件ではあるのですが、司書資格ということではほとんどの方は来ていただいています。2年間任期の臨時職員から3年間任期の非常勤職員に移行していかなければいけないかと検討しているところです。

(内田副会長) 利用者からすると、窓口で司書がいるというのはありがたいことですが民間の会社に指定管理した場合は全員司書になるのでしょうか。

(副館長) 条件で何割以上司書ということになっているようです。

(内田副会長) 100%司書ということはないのですね。

(副館長) 20年前は正規職員司書が9名、一般職員4名計13名現在は半分の人員になっているわけです。減員した分の職員が臨時非常勤というわけですが、それであるのでなおさら専門知識のある司書が必要なのです。雇用方法など今後の検討課題です。

(星川会長) 継続という観点から専門知識が必要ということですね。

(3) その他

(古川委員) 雑誌スポンサー制度はどのくらい賄えているのでしょうか。

(副館長) 17団体24誌、その分他の雑誌を充実しています。

(古川委員) 増やす予定や企業への声かけはされているのですか。

(館長) 昨年度、商工会議所さんに会議の中で声かけていただいたところ、数社さんが受けてくださいました。スポンサーさん数は県内図書館ではトップです。増加も考えているのですが、広告効果の高い雑誌は、ほぼスポンサーさんがついてくださっているので、これ以上は望めないかともは考えています。

(土岐委員) 図書館で抱えている課題などはないのでしょうか。

(館長) 25年を迎えて建物の修繕箇所が増えていきます。計画的に予算を獲得していかなければいけないと考えています。

(副館長) 充実させたいものが、資料費(図書費)なのですが、新居浜は約2千万円、他市に比べると低い状況です。新居浜市立図書館の蔵書を維持するためにも今後の資料費の確保を考えています。

(星川会長) 小学校の校長をしています、学校図書館支援センターと図書館の情報交換をもっと密にとっていただけたらもっと充実するのではないかと思います。

(内田副会長) 図書館が地域みんなの学ぶ場になることを願っています。

以上